

## 地域貢献

## 大阪市立大学 都市防災研究プロジェクト(ODRP)

大阪市立大学では、平成23年に都市防災研究プロジェクトを立ち上げ、東日本大震災の被害調査支援活動を行うとともに、私たちの地域である大阪において「いのちを守る都市づくり」をキーワードに本学内の様々な専門分野が横断的に手を取り合い、都市防災のあり方の研究・教育活動を行っています。

この活動は、いざという時に備えて単に建物やライフラインの防災力を見直すだけではなく、都市で暮らす「人の力」、都市で営まれる「コミュニティの力」を高めることによる「いのちを守る力」の育成の重視に特徴があります。そのため活動は住民・行政や学校といった地域防災に関わる様々な立場の方と協働しながら行い、災害リスクの学習、対応訓練、情報や活動の拠点・仕組みの整備、と連なるサイクルを構築できるよう取り組んでいます。



堤防付近で海拔0m地域の説明



携帯端末で撮った写真をアプリで電子地図上にアップロード

地域住民を対象に行ったアンケートで、災害に対する意識が地域ごとに大きく異なる結果となり、今後の地域特性に合わせた防災計画策定に役立ちました。また、将来のいざという時に自立して適切な対応を取ってほしい中学生を中心に住民や防災専門家が参加し、避難場所を確認し防災情報を共有するまち歩きを開催しました。まち歩きでは普段は聞けない防災専門家の説得力ある説明に理解が深まるとともに、中学生はタブレット端末を用いて各所で写真を撮影し、アプリとパソコンを使ってオリジナル防災マップを作成しました。防災というとややもすると堅い内容になりがちですが、このようなまち歩きで楽しみながら防災を学んでいただけよう努めました。

平成26年3月には本年度の活動を総括するフォーラムを開催、先進的な防災活動を進めている大阪市立鶴見橋中学校や南住吉大空小学校の事例に受講者が聞き入っていました。またコミュニティ防災拠点「いのちラボ」の第一号として鶴見橋中学校を認証し認証式を行いました。

## 公開講座

## 大阪市立大学 文化交流センター講座

文化交流センターは、大阪市立大学を中心とする大学教員等による知的情報の提供、交流推進、学術研究成果還元、学術文化振興寄与を目的に、昭和57年に梅田の大阪駅前ビルに設立されました。年間を通しておおむね60回程度、各種のシンポジウム、セミナーなどを開催しています。

平成25年5・6月に開催された「今、そこにある危機－我々はどうのり越える？－」は、現在の日本を取り巻く難題について、6人の講師が解説を行いました。工学研究科の大島昭彦教授による「地盤の液化化現象とは」では、大阪地域の250m区画ごとの地盤モデルを用いて、東南海・南海地震の液化化危険度を予測した結果などが示され、受講生たちの関心を引きました。他の回も、幅広いテーマのラインナップのもと合計400名弱の方が参加し、熱心に講義を受けられました。

## 地域貢献

## 住之江区・住吉区・西成区と連携協定を締結

大阪市立大学と大阪市住之江区役所、住吉区役所、西成区役所は、これまでのさまざまな取り組みを発展させ、各区の活力ある地域づくりと大学の教育・学術研究機能をさらに強化することを目的に、連携協定を締結しました。

平成25年6月24日(月)に学術情報総合センターで行われた連携協定書調印式では、高橋住之江区長、吉田住吉区長、臣永西成区長が出席され、理論的・科学的根拠を持つ区政の推進に向けた大学の研究成果(知の力)の活用や地域課題に対応した取り組み等への期待が語られました。特に、防災に関しては3区それぞれに異なる地域特性と災害リスクがあることが明らかになり、それらに配慮した大学との連携の必要性を改めて認識することができました。

その後、協定締結を記念し、本学、都市防災研究グループ(ODRP)と各区長による公開討論会「地域防災の取り組み・課題と大阪市立大学の役割」を開催しました。会場は、140名超の参加者の熱気に包まれ、各区の取り組みの状況や認識されている課題等について学ぶとともに、大学の研究・教育による貢献の可能性等について考える場となりました。

本学の都市防災研究グループは、2011年3月11日に起きた東日本大震災直後に立ち上がり、「いのちを守る都市づくり」をテーマに様々な活動を行ってきました。

例えば、研究成果をまとめた「いのちを守る都市づくり【課題編】」「同【アクション編】」の出版活動や地域の方たちを対象としたまち歩き、ワークショップ等の他、平成25年3月には、地域連携センターの開設記念となる地域防災フォーラム「いのちを守る都市づくり」を開催しています。

市民が自分の住む地域の特徴を知り、災害への対応について考えることが地域の課題であるとすれば、地域ごとのリスクを分析し、わかりやすく伝えていくことが大学の役割であると、都市防災研究グループ代表の森教授(生活科学研究科)のコメントもあり、今後の区と大学の連携の方向性について思いをめぐらすことができました。



各区長も参加した公開討論会の様子



調印式を終えた西成・住吉・住之江各区長と本学西澤理事(左より)

地域  
貢献

西成情報アーカイブがオープン

平成25年10月8日、西成区にある大阪市社会福祉研修・情報センターの1階に、「西成情報アーカイブ」がオープンしました。これは、西成特区構想での提案を具体化し、平成25年6月に締結した西成区と大阪市立大学の連携協定のもと、地域連携センターが西成区から企画運営事業として受託したものです。

この「西成情報アーカイブ」は、西成地域に所在する歴史的・文化的・学術的に貴重な資料を収集し、デジタルアーカイブ化し、学術研究に資するとともに、大阪市社会福祉研修・情報センターの一部スペースを活用して、市民も気軽に学習できる場を提供するものです。

「絵図・地図でめぐる西成」と題したオープニング企画では、江戸末期から昭和・戦前までの貴重な絵図や地図、写真が並び、旧西成郡や西成区をめぐる都市化の進展を時代ごとにわかりやすく展示しました。

10月8日(火)のオープニング記念イベントは、テレビ局や新聞社などの取材が行われる中、会場いっぱいの来場者とともに、盛大に行われました。まず、臣永西成区長のあいさつでは、小学校での歴史や地理の学習にアーカイブ資料を活用することに加え、西成の歴史・地理の学びを通じた区と大学の今後の連携への期待について語られました。水内教授(大阪市立大学都市研究プラザ)の記念講演では、地理・歴史学から見た大阪・西成の“おもしろさ”に関する熱い語り、会場の聴衆たちも新たな発見や認識を共有しました。

その後11月には「西成エスニックミュージアム:西成から始まる地域まるごと博物館構想」、12月には「別荘・遊覧都市西成の系譜を探访する」と題した2回のスタディツアー、3月には「もうひとつのアーバンヒストリー」と題したシンポジウムを実施し、西成の歴史的・文化的な多様性や現代との関連について学ぶ機会を提供しました。



記念講演「絵図・地図でめぐる西成」

西成は大阪都心に近く往来の多い紀州街道沿いに位置したことから、多くの情報や人が先進的に行き交う場でもありました。スタディツアーでは「天下茶屋は塚山に先駆けるお屋敷街だった」「新今宮駅周辺は今や有数の外国人旅行者向け国際集客の街」といった意外な側面も知った参加者からは、「西成のイメージが変わった」「街づくりの力になる」といった意見もありました。そうした意見を反映しつつ、今後の事業に反映していきます。

西成情報アーカイブ(大阪市社会福祉研修・情報センター1階)  
住所: 大阪市西成区出城2-5-20  
開館時間: (祝日休館)  
1) 常設展示 平日9:00-21:00、土日9:00-17:00  
2) 資料解説・閲覧 原則、月・火曜10:00-17:00(要事前問合せ)

西成情報アーカイブ企画運営事業  
第2回 スタディツアー

「別荘・遊覧都市西成の系譜を探访する」

ミニレクチャーで展示の絵図・写真の説明をスタディツアーコース中心に解説  
その後、天下茶屋、甲天下、阿倍野(橋本町)などを巡視、天神ノ森駅で解散予定です。  
(雨天代行) ※参加費は別途お見積りください。 コーディネーター: 水内 博隆 (大阪市立大学都市研究プラザ 教授)

日時 2013年12月14日(土)  
13:00から18:00まで  
集合 大阪府社会福祉研修・情報センター1階に13時集合  
内容 西成情報アーカイブにて、ミニレクチャー後、天下茶屋方面を現地見学  
費用 公共交通機関を若干利用します。お昼食は各自でお願いします。  
申し込み E-mailまたはFAXにて下記にお申し込み下さい。  
お申し込み先 大阪府社会福祉研修・情報センター  
〒554-8501 大阪市西成区出城2-5-20  
TEL 06-6605-3504 FAX 06-6605-3505  
http://www.connect.osaka-cu.ac.jp/4c/

お問い合わせ  
西成区役所 総務課: 06-6659-0683  
大阪市立大学 学務企画課: 06-6605-3504 FAX 06-6605-3505  
http://www.connect.osaka-cu.ac.jp/4c/

第2回スタディツアーの案内

地域  
貢献

大阪市博物館協会と博学連携事業

大阪市立大学では大阪市博物館協会と平成23年に協定を締結し、「博学連携(はくがくれんけい)」とよんで、研究・教育・地域貢献などのさまざまな分野で事業を進めています。一般的に、「博学連携」といえば、学生・児童の教育の一環として博物館を位置づける活動のことをいい、本学でも学生が対象施設を無料で鑑賞できる「キャンパスメンバーズ制度」を導入しています。

本学の「博学連携」では、大学生の教育の場にとどまらず、博物館学芸員と大学教員との共同研究や、博物館と大学が協力して市民のみなさんに最新の研究成果をお伝えする地域貢献も、重視しています。このように、大学と複数の博物館が、学生教育以外の側面でも恒常的かつ広範囲に連携活動を進めるのは、日本で初めてのことです。

広く一般の方を対象にした「博学連携講座」の一つ、大阪市立自然史博物館と共同で行った「昆虫」に関する講座はのべ163名が受講。体内時計やハチの毒の驚くべき能力に、多くの受講者が聞き入っていました。また大阪歴史博物館と共同で行った「難波宮」に関するシンポジウムでは220名の受講者に、歴史文化の深さに触れていただくことができました。



シンポジウム「難波宮と大化改新」

公開  
講座

近鉄文化サロン講座

大阪市立大学の各分野の専門教員を講師として、阿倍野橋のandを会場に、近鉄文化サロンとの共催講座を平成19年から行っています。サロン会員を対象として専門性の高い内容をわかりやすく講義し、教養を豊かにしていただくべく開講を続けています。

平成25年度は「萬葉集」「認知症」「大阪の地震」等のテーマで36講座を開講し、1,000人以上の方に受講いただきました。

公開  
講座

大阪府立大学・関西大学との3大学連携事業

平成20年、大阪市立大学と大阪府立大学、関西大学は、大阪都市圏に立地する大学として、より活発な相互交流を推進するため、幅広く連携を強化していくことについて合意に達し、包括連携協定を締結しました。

その協定に基づき、平成21年から年2回の三大学連携公開講座を共催、平成24年から名称を三大学連携事業に変更し、2回のうち1回は学生を中心にした交流事業、1回は公開講座事業を行っています。

平成25年は関西大学千里山キャンパスを会場に、交流事業として「震災における支援活動と防災・減災」、公開講座事業として「日本は世界に通用するグローバル人材を生み出せるか～英語教育の観点から～」を開催し、熱心に受講する参加者が多くみられました。

## 公開講座

## 公開授業「大阪落語への招待」

大阪市立大学では、都市・大阪が発達の母体となった文化の一つである大阪落語に関する講義「大阪落語への招待」を平成19年より開講しています。この講義は、大阪の歴史や文化を広く知っていただけるよう、学生に加えて一般の方も受講することができ、例年定員を超える方が申込をされる大変人気の高い公開授業です。

平成25年も大阪落語の第一線で活躍する桂春団治一門を講師に迎え、江戸落語との違いや、歌舞伎や音曲との関係などを明らかにし、地域の芸能を「学問する」という大阪市立大学ならではの講演となりしました。

7月の第12回授業「寄席への招待」では、桂春団治一門による落語会が実施されました。お囃子もある中で、本物の寄席を体験された一般受講生の方々、そして学生の皆さんは、熱心に聞き入っておられ、笑いの絶えない授業となりました。

毎回の盛況のまま迎えた本授業の最終回では、全14回講義の内10回以上出席された一般受講生の方を対象に修了証授与式を行い、平成25年は100名超の方に修了証をお渡しすることができました。



演目「子は鎧」(桂春之輔)

## 小中高大連携

## 高校生のための先端科学研修

大阪市立大学では、本学教員が高校生に講義・施設紹介を行う「高校生のための先端科学研修」を、平成15年度より大阪市教育委員会と共催しています。

ここ数年は「大阪市立大学化学セミナー」と題し、高校で学ぶ「化学」とは違った角度で体験と面白さを味わっていただくことで、各分野への興味関心・学習意欲を高めてもらうことを目的に、毎年夏休み期間中に開催しています。

平成25年は「分子を形で仲間分けしてみよう」「相転移と低温の世界」「色素の謎を探ってみよう」の3コースを開催し、のべ269名の高校生が受講しました。

各コースとも終了後にクイズを行い、正解者には、協賛企業からの景品プレゼントもあり、大変盛況の中、開催することができました。

今後も高校生が楽しみながら学習意欲を高められる講座を実施していきたいと考えています。



液体窒素を使った実験では、マイナス195度を計測

## 小中高大連携

## 高校化学グランドコンテスト

大阪市立大学は、大阪府立大学・読売新聞大阪本社と共催し、文部科学省・28都道府県教育委員会・各団体等の後援、23社の協賛のもと、平成25年11月3日と4日に「第10回高校化学グランドコンテスト」最終選考会を開催しました。

これは高校生および工業高等専門学校生(3年生以下)が行っている学習研究活動を支援し、高校生自らが自主的な研究活動を楽しみながら科学的な想像力を培い、将来科学分野で活躍できる人材の育成を念頭に置いて行っている教育支援プログラムです。

具体的には、博士課程の学生を高校等に派遣し、高校生たちがコンテストにエントリーする研究活動をサポートしています。これにより博士課程の学生は、リーダーシップ力やコミュニケーション力を実践教育で身につけることができ、高校生だけでなく博士課程の学生についてもこのコンテストを通じて、各分野で活躍できる優れた人材の育成に取り組んでいます。

「化学の甲子園」と呼ばれるまでに成長した本大会は徐々にその規模を拡大し、本年度は北海道から九州まで全国から過去最多のエントリーがあり、のべ参加人数は2日間で850名余にのびりました。

書類審査による一次審査をパスした10チームがプレゼン、56チームがポスター発表を行いました。

このうち、大阪府立千里高等学校「自作のパッシブサンプラーによる大気中のオゾン濃度測定」が文部科学大臣賞を受賞し、大阪府知事賞には福島県立磐城高等学校「カルパノンの全合成」、大阪市長賞は国立米子工業高等専門学校「卵の膜がコンビニに並ぶ日がやってくる!?～豊かな食生活に貢献するリサイクル材料の開発～」がそれぞれ受賞しました。



事務局長篠田教授(理学研究科)と台湾、シンガポールからの参加者たち

文部科学賞を受賞した大阪府立千里高等学校は、平成26年1月に台湾・台北市で開催された国際科学フェア「Taiwan International Science Fair (TISF) 2014」に特別派遣され、見事2位を獲得しました。

2004年の第1回から数えて節目となる第10回を迎えるにあたり、本大会を国際大会と位置付け海外より3校を招へいしました。その結果、日本の高校生も英語と日本語を交えた素晴らしい研究発表を行うなど、実に国際色豊かな大会となりました。

## 小中高大連携

## 中学生サマーセミナー

大阪市立大学では、中学生のときから将来大学に行って学びたいという学習意欲を高めることを目的に、大阪府下の中学校に在籍する生徒を対象に、中学生サマーセミナー推進協議会が主催する「中学生サマーセミナー」に講座を提供しています。

平成25年は「PETボトルの中で雪の結晶作り」「磁場で動く小型ロボット」を講義しました。水の固相・液相・気相という変化の仕組みを学び、真空の知識を利用しながらペットボトルの中に雪の結晶を作る実験や、磁場の性質を知り、電池なしで動く小型ロボットの作成を行い、中学生21名が受講しました。

今後も中学生の興味関心を高められるよう、中学校の学習内容をより発展させた講座を提供していきたいと考えています。

地域  
貢献

## 新宮市との「域学連携」地域活力創出モデル実証事業

「域学連携」地域活力創出モデル実証事業とは、大学と遠隔の地域との交流を図ることを目的に、総務省が進めるプロジェクトで、平成24年度末、全国16自治体が採択されました。和歌山県新宮市もその一つで、大阪市立大学と大阪府立大学が連携大学として関わり、事業が推進されました。中山間地域の再生を主軸にした他大学の事業とは少々異なり、地域の子どもの中心とした次世代を育成する活動に大学が参画することで、地域力をつけるというユニークなプロジェクトを進めてきました。

大阪市立大学と大阪府立大学の学生・院生がのべ49名、50日間の活動を新宮市で行いました。新宮市生涯学習課と本学の地域貢献部門が事業運営で緊密に連携し、児童館での合宿や民泊を通じて様々な取組を進めました。子どもの地域の理解を深める「子どもまち学習ワークショップ」、小学校の出張講義「出前めきめきプログラム」、新宮の福祉やツーリズム、災害復興を学ぶ「土地力を知るスタディツアー」、インテンシブな調査、そして中山間地域の農地再生の一端を知る体験学習を行いました。

今までは、教員と学生が個別に取り組み、教育・研究の一環として地域に入っていました。大学の教員と職員が「教職協働」することで、現場、大学双方においてこの事業が見える化し、現場の調査や体験もスムーズに進みました。また学生が地域と向き合い主体的に学んだことで、報告書作成を通じ、地域に還元することができたと総括しています。



「子どもまち学習ワークショップ」でのガリバーマップづくり

小中高大  
連携

## 小学校との連携事業「輝く未来の芽」

大阪市立大学では、様々な小・中・高・大学との連携を通じて、学術の理解を深める機会を提供し、研究成果を社会へフィードバックしています。その一環として、将来を担う児童を「小さな芽」と位置づけ、「輝く未来の芽めきめきプログラム」として本学の教員が小学校等へ出向く出張授業を実施しています。また多文化共生の観点から、留学生による異文化についての授業も行っており、知的創造性を育むことを目的としています。

受講した児童が「自宅に帰って話をした」など、普段と違う学びに興味を持つことで、好奇心を刺激し、学びに広がりを持つよう取り組んでいます。

今後の展開としては、出張授業だけではなく、地域の教育機関と連携しながら、教育人材の研修会や地域の冊子発行なども含め、地域の次世代を担う人材育成を推進していきたいと考えています。



異文化を知る授業の様子

地域  
貢献

## 大阪市立大学地域連携発表会を開催

地域連携センターは、開設一周年を記念し、平成26年3月5日、大阪市立大学高原記念館学友ホールにおいて地域連携発表会を開催しました。

大学が実施する地域連携・貢献事例を集め、それを「見える化」することは地域連携センターの重要な役割であり、地域の方たちとの新たなつながりづくりのきっかけとなることをめざし、実施したものです。

当日はあいにくの雨模様でしたが、行政関係者、各種団体、地域の方、教職員・学生等、定員を上回る102名の来場がありました。

宮野所長のあいさつで開会した後、前半として杉本キャンパスのお膝元、住吉区を中心とした大阪市における連携事例について、テーマごとに担当教員等による発表を行いました。

まず、歴史・文化をテーマに、仁木宏教授(文学研究科)から、文学部1回生の授業における住吉区遠里小野でのフィールドワークについて報告、続いてティーチングアシスタントを務めた川元奈々さん(同研究科後期博士課程)から感想等の報告がありました。次に、地域福祉をテーマに鶴浦直子講師(生活科学研究科)から、生活困窮世帯の子どもたちの学習支援を目的とした「すみよし学びあいサポート」事業について報告がありました。さらに、商店街の活性化をテーマに、加藤司教授(経営学研究科)から、我孫子町商店会と連携した地域活性化プロジェクトについて、フロアの学生との掛け合いを交えて報告がありました。これら3事例はいずれも学生が地域の中で学ぶことで大きな教育効果が得られ、かつ、地域にも貢献することができた好事例でした。

後半は、大学の研究プロジェクトを通じた地域貢献事例を紹介しました。まず、鍋島美奈子准教授(工学研究科)から、新たに整備される都市計画道路の地域案の作成に対して、地域と共に考える場を設けた研究プロジェクトに関する報告がありました。さらに、本学の都市防災研究グループを代表し、生田英輔講師(生活科学研究科)から、東日本大震災以降、大学を挙げて実施してきた研究プロジェクトの成果と地域への還元、コミュニティ防災の重要性等について発表がありました。

休憩時間には、学生たちが自ら作成したポスターを使って、地域の方に地域研究・活動について説明・質問に答えるコーナーを設け、さらに、各講師を囲んで、座談会形式の質疑応答が行われました。いずれも熱心に質問される方たちで最後まで会場は熱気に包まれていました。

このような行政関連機関、地元団体、大学教職員、大学生等が一堂に会する交流の機会は、初めての取り組みでしたが、大学と地域の連携に対する関心の高さ、期待の大きさをうかがい知ることができました。



ポスターの前で説明する学生たち



熱気あふれる会場風景